



芳滝 仁 議員
(ひまわり)

問 今後の幕別町教育施設等の管理について

答 教育施設に求められる機能と安全性の確保に努め、今後も協議していく

問 幕別町が保有する公共施設の人口一人当たりの面積は近隣1市3町、国、道の平均より多く維持管理費は平成30年より約2000万円ずつ増え、令和2年度で約8億3000万円であり、今後の財源不足が大変危惧される。

(1)教育委員会では令和7年に幕別小学校の改修を予定されているが、小中学校が一つの施設に集約される場合、使用しない校舎等の利活用について、ふるさと館、認定こども園、しらかば大学等の移設を議論すべきだと考えるが伺う。
(2)集団研修施設「こまはた」の今後の利活用について指定管理等、民間力の活用を視野に入れ見直し、音楽室、調理室、シャワー室等の設備を利用し、町外からも多くの人に利用していただけるようにすべきだと考えるが伺う。
(3)本年度末に閉校する古舞小学校の今後のあり方について、地域住民との対話の状況と今後の利活用について伺う。
(4)今後の幕別町教育施設等の全体

的な管理計画と方向性について統廃合を含め、早急に検討していく必要があると考えるが伺う。

教育長

(1)幕別小学校と幕別中学校を使用した「施設分離型の小中一貫型小学校・中学校」、幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「施設一体型の小中一貫型小学校・中学校」、「義務教育学校」の3通りから、「まぐべつ学園」の在り方と施設整備の方向性を検討してきた。本年5月に実施したアンケートでは、今後の方向性として「義務教育学校」が最も高い回答となった。今後は9月中に地域説明会を開催し、施設整備の方向性を早急に結論づけていきたいと考えており、今後の方向性が確定後、どちらかの校舎を使用しない場合には、該当する学校の校舎等跡地利用を協議していきたい。
(2)集団研修施設「こまはた」は、忠類小学校との統合により、平成22年3月で閉校した駒畠小学校校舎の跡地利用についての地域住民と

の協議を経て、23年4月に供用開始した。協議では、地域住民や少年団、部活動のほか、文化・スポーツ団体などの合宿や練習に利用できる地域の活動拠点、自然体験施設への改修要望が地域住民からあり、結果的に合宿などの宿泊可能な施設とした。

町外からの利用も多く、平成23年度の利用者は2592人、令和元年度は過去最多の2885人。その後はコロナ禍の影響で2年度817人、3年度719人、4年度919人とコロナ禍前の半数以下まで減少していた。本年度8月末現在の利用者数は1256人で、目標である2000人に到達しそうな状況まで回復してきた。引き続き現状の手法で施設運営を行い、更なる利用者増に向けて、広報紙やSNS等を活用しながら施設のPRに努めていく。
(3)古舞小学校PTAと古舞公園から、「令和5年度末をもって、古舞小学校を閉校し、札内南小学校へ統合をすること」の要望を受け、

円滑な統合に向けた準備や校舎等の跡地利用について、5月16日と7月10日に、古舞小学校のPTA役員、保護者などで構成する古舞小学校閉校記念事業協賛会や町内会役員などの地域の方々と、古舞小学校校舎等跡地利用に係る地域協議を開催し、地域としての要望や意見、質問などを聞かせていただく場を設けてきた。

地域の思いとして、スポーツやレクリエーション活動などの地域での活用を含め、当面は閉校後の校舎等を残すことを望む声が多かったことから、今後も、さらに協議を行い、早い段階で跡地利用の結論を見いだしていきたい。

(4)「幕別町学校施設の長寿命化計画」に基づき、令和3年度から10年ごとの4期に分けた長寿命化の実施計画の中で、順次、長寿命化改修を進めていくが、町を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するため、社会情勢や町民ニーズを踏まえながら、5年ごとに長寿命化改修計画の見直しも行っていく。

社会教育施設や社会体育施設は、それぞれの施設の劣化度評価を行い、長寿命化改修計画の策定を考えている。

今後も教育施設に求められる機能と安全性の確保に努めていく。